

# 第1・2学年 図画工作科学習指導案

立案者 藤本 賢春 (2022年度制作)

## 1 題材名 もぐらバスにのって おでかけしよう (読書感想画) (絵や立体, 工作)

〈A表現(1)イ(2)イ, B鑑賞(1)ア, 共通事項(1)ア, イ〉

### 2 題材設定の理由

徳島県の小学校では、毎年全学年で「読書感想画」の指導が実施されている。この学習の目的は、「第33回読書感想画中央コンクール」のホームページ内にある、「どうして読書感想画を描くのですか。」という問いの答えから分かる。その答えは、「読書の感動を絵に描くことは、あなたの読書体験をより深く豊かなものとします。どうやって自分のイメージを色や形にするか、構図はどうするかなど、手を動かし頭を働かせることがあなたの表現力や発想力・想像力を鍛えます。」というものだ。つまり、読書感想画指導の目的は、「A読書感動画を描くことで、子供の読書体験をより深く豊かなものにすること」、「B読書感動画を描くことで、子供の表現力や発想力・想像力を鍛えること」であると分かる。

このような目的の下、「読書感想画」の指導は実施されているのだが、多くの教員はこの指導の在り方で頭を悩ませている。このことは、図工の研修会で実施したアンケート結果からうかがえる。主な悩みとして、「①どんな本を基に描かせたらよいか」や、「②みんな同じような作品になってしまう」こと、「③コンクールありきの時間になってしまっている」ことや、「④なかなか描き始められない子供が出てしまう」こと、「⑤子供に読書感想画を描く意欲を感じられない」ことなどが挙げられていた。②や③や⑤に関しては、図工の目的、読書感想画指導の目的の両方に沿っていないと考えられるため解消したい悩みである。そこで、低学年においてこれらを解決できる題材がどのようなものであるか考え、本題材を設定した。

本題材は、「国語や体育、生活の時間と連携しながら」進めていくことを重要視している。なぜなら、小学校学習指導要領(平成29年告示)解説「図画工作編」に、低学年時期の子供の特性として、「周りの人、物、環境などに体ごとに関わり全身で感じるなど、対象と一体になって活動する傾向が見られる。」と記されており、図工における読書感想画指導の時間だけで、この特性を十分に生かすことは難しいと考えたからだ。また、低学年の図工では「楽しく表現すること」も目標の一つとなっているため、これらを読書感想画指導に当てはめると、「子供が体全体を働かせ楽しみながら、読んだ本の内容に関する様々なことに気付き、感じ取ることができるような時間」を作ることが必要だと考えられる。

このような時間を作ることができる本の一つとして、本題材では「もぐらバス」という絵本(偕成社より2010年出版、佐藤雅彦【原案】、内野真澄【文・絵】)を選び、読書感想画指導をすることにした。この絵本は、土の中に住んでいる様々な生物が、もぐらが運転するバスに乗り、いろいろな場所へと続く地下道を通ってお出かけするといった内容のお話である。この絵本であれば、前段で示した「子供が体全体を働かせ楽しみながら、読んだ本の内容に関する様々なことに気付き、感じ取ることができるような時間」を作ることができると考えた。その具体を、教科ごとに順を追って示していく。

まずは、国語の時間に「もぐらバス」の読み聞かせを行うことから始める。ここで、読み聞かせをする前に子供には、「もぐらバスに関する『クイズ大会』を後でするからね」と周知しておく。そうすることで、普段あまり読み聞かせの内容が上手く頭に入らない子供も、話の内容や絵をしっかりと聞いて見て覚えるようになると思う。さらに、「もぐらバスに関する『クイズを作らせる活動』をすれば、子供たち一人一人の頭の中により絵本の内容が残るようになる」と考えられる。

次は、この活動を生かし、体育の時間に『もぐらバスの世界』を表現してみよう!とモチをかける。そうすると、もぐらになる子供や、他の登場人物になる子供が表れると予想される。また、「もぐらバスの運行」を表現しだす子供や、作中には出てこなかった『もぐら列車』を創作し、『〇〇まで出発!!』などと自分達の想像を付け加えた表現をし始める子供が表れることも考えられる。

このような活動までできれば、最後に「もぐらバスの世界における『土の中の世界（通路）』」のイメージも、子供の中に膨らませてやりたい。

そこで、生活の時間に『もぐらバスの世界』を砂場で作ってみよう！ともちかける。砂場で山を作り、トンネルを作り、友達同士でそのトンネルをつなげるような活動をすれば、子供は「ああ、もぐらバスの世界ってこんな感じかな」と体全体を働かせながら気づき、感じ取ることができるだろう。以上のような活動によって、「もぐらバス」という一冊の絵本から読み取った内容を基に、「もぐらバスの世界」のイメージを子供一人一人の中で十分に膨らませることができたと考える。後は、子供一人一人が膨らませた「もぐらバスの世界」のイメージを、図工の時間で絵に表していくことになる。このように、他教科との連携をしながら、繰り返し「子供が体全体を働かせ楽しみながら、読んだ本の内容に関する様々なことに気づき、感じ取ることができるような時間」を作ることができれば、多くの教員が読書感想画指導で抱えている①～⑤の悩みはほぼ解消され、個性豊かな作品が最終的に出来上がるのではないかと考える。

図工の時間では、既習の「ぺったんコロコロ（日文1・2上：平成31年検定済教科書）」や「ぼかしあそびで（開隆1・2下：平成31年検定済教科書）」などで学んだ表現方法を思い出させ指導していく。既習の表現方法とは、紙やスポンジなどに絵の具をつけてぺたぺたしたり、ローラーでコロコロ色をつけたり、クレヨンで描いたところを紙や布などでこすってぼかしたりすることである。これらの表現は、「土の中の世界（通路）」を表わす際に子供が使ってみてみたいと思う方法の一つかもしれない。教師は子供が活用したいと思った時に、すぐ使える環境を整えておきたい。他に、色紙や、色画用紙、ラメなども用意しておき、子供の表したい思いに伝えられるようにしておく。また、子供同士で席を向かい合わせにして活動させることも重要だと考える。そうすることで、友達が描く「もぐらバスの世界」を常に目にしながら活動することができるようになる。すると、子供同士で刺激し合い「もぐらバスの世界観」がさらに広がっていくと考える。その際、一人が地上の世界を、一人が地下の世界を描き、二つの作品を上下につなぎ合わせて一つの作品にしようとする子供が出てくる展開も考えられる。教師は、このような子供の想像の広がりをしっかり受け止め、共に「もぐらバスの世界」を楽しみたい。こうして作品が出来上がれば、絵の「造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方」などについて気付いたことや感じたことを発表し合う時間を作り、子供一人一人の見方や感じ方を広げる。そして、国語の時間に「もぐらバス」の読書感想画を描き気付いた「新たな『もぐらバスの世界』」について発表し合う活動を通して、子供の読書体験を深められるようにする。

このように、一冊の本から読み取った内容を、子供一人一人が体全体で感じながら、楽しく絵に表す活動ができれば、図工が目指す「子供の創造性を育成する」ことができるとともに、冒頭に示した読書感想画指導の目標「A 読書感動物を描くことで、子供の読書体験をより深く豊かなものにする」と、「B 読書感動物を描くことで、子供の表現力や発想力・想像力を鍛えること」も達成できるだろう。以上のことから、本指導は「低学年における読書感想画指導」になると考える。

### 3 題材の目標

- (1) 自分の感覚や行為を通して、形や色などに気づき、思い描く「もぐらバスの世界」を絵に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを十分に働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。

(知識及び技能)

- (2) 形や色などを基に、自分のイメージをもち、想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように自分が思い描く「もぐらバスの世界」を絵に表すかについて考えるとともに、自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。

(思考力、判断力、表現力等)

- (3) 自分が思い描く「もぐらバスの世界」を楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする。

(学びに向かう力、人間性等)

#### 4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の感覚や行為を通して、形や色などに気付いている。</li> <li>自分が思い描く「もぐらバスの世界」を絵に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを十分に働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>形や色などを基に、自分のイメージをもち、想像したことから表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように自分が思い描く「もぐらバスの世界」を絵に表すかについて考えている。</li> <li>自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>つくりだす喜びを味わうとともに、自分が思い描く「もぐらバスの世界」を楽しく表現したり鑑賞したりする活動に取り組もうとしている。</li> </ul>

#### 5 指導と評価の計画（国語2時間、体育1時間、生活1時間、図工4時間）

図工での指導に入る前に、国語の時間を使い「もぐらバス」の読み聞かせを実施する。そして、体育の時間（表現運動系領域）を活用し、「もぐらバス」の世界で起こったことを想いのままに表現させる。子供たちが、「もぐらバス」の登場人物になりきるこの活動を通して、感覚的に「もぐらバスの世界」について感じ取らせる。さらに、生活の時間を利用して砂場に「もぐらバスの世界」をつくらせる。この活動を通して、体育の時間に自分達が登場人物になりきって行き来していた「土の中の世界（通路）」をイメージしやすくさせる。その後、図工の時間を使い、子供一人一人が思い描く「もぐらバスの世界」のイメージを友達同士で共有させてから、次のような指導と評価を行い実践していく。

なお、作品が完成した後には、図工の鑑賞とは別に、国語の時間に「もぐらバス」を読み、読書感想画を描いたことで新たに気付いたことや感じたことなどを出し合わせ、「A 読書感動画を描くことで、子供の読書体験をより深く豊かなものにすること」や、「B 読書感動画を描くことで、子供の表現力や発想力・想像力を鍛えること」の達成を目指し、本活動を振り返らせる。

時間	ねらい・学習活動	評価の観点	評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が思い描く「もぐらバスの世界」のイメージから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、友達と一緒にどのように表わせばよいか考える。</li> <li>自分が思い描く「もぐらバスの世界」を友達と一緒に絵に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫する。</li> </ul>	<b>態</b> ○  <b>思</b> ◎ （発想や構想）	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が思い描く「もぐらバスの世界」のイメージから、表したいことを見付け、好きな形や色を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、友達と一緒にどのように表わせばよいか考えている様子を観察する。 （観察・発言・対話）</li> <li>自分が思い描く「もぐらバスの世界」を友達と一緒に絵に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫している様子を観察し、記録に残す。 （観察・発言・作品・対話）</li> </ul>

2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が思い描く「もぐらバスの世界」を絵に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、既習を生かし、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。</li> <li>・自分の感覚や作品づくりを通して、自分が思い描く「もぐらバスの世界」にふさわしい形や色などに気付く。</li> </ul>	<b>技</b> ◎          <b>知</b> ◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が思い描く「もぐらバスの世界」を、絵に表す活動を通して、身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れるとともに、既習を生かし、手や体全体の感覚などを働かせ表したいことを基に表し方を工夫して表している様子を観察し、記録に残す。 (観察・発言・作品・対話)</li> <li>・自分の感覚や作品づくりを通して、自分が思い描く「もぐらバスの世界」にふさわしい形や色などに気付いているか観察し、記録に残す。 (観察・発言・作品・対話)</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達が思い描いた「もぐらバスの世界」の絵を見合いながら、それらの面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。</li> </ul>	<b>思</b> ◎ (鑑賞) <b>態</b> ◎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分や友達が思い描いた「もぐらバスの世界」の絵を見合いながら、それらの面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている様子を観察し、記録に残す。 (観察・発言・作品・対話)</li> </ul>

### 【活動の様子(2年生)】

右の写真①は、砂場でもぐらバスが通る地下道を友達と一緒につくっている様子である。

②は、個人での活動前に模造紙上でもぐらバスの世界観を友達と共有し合い、表現している様子である。



左の写真は、出来上がった20作品のうちの4作品である。もぐらバスに乗って出かけた場所の様子が描かれており、これらが絵本の中に出てこなかった場所であることから、子供がそれぞれに想像を膨らませて表現したことが分かる。

ただ、どの作品にもバスが描かれており、その形や色は絵本に出てくるバスのままだった。登場人物だけの作品や、作中に出てこないバスが絵の中に出てくるようになると、より個性豊かな作品が出来上がったかもしれない。

※2019年度に本題材での指導を依頼し実践された記録より